

24

肝移植について教えてください。

A 肝移植は、機能不全となった肝臓を新しい肝臓に入れ替える治療です。肝臓の提供者をドナー、もらいうける患者をレシピエントと言います。生きているドナーから肝部分移植を行う生体肝移植と、脳死患者から全肝を移植する脳死肝移植があります。



移植される肝臓をグラフトと呼びます。生体肝移植は、ドナーに肝臓を残す必要がありますので、部分肝移植が行われます。レシピエントの体格などに応じて右葉グラフト(左図)又は左葉グラフト(右図)が選択されます。脳死肝移植では全肝をグラフトとすることが殆どです。原疾患にもよりますが、生体、脳死移植ともに本邦の5年生存率は約70%です。

肝移植について

● 肝移植の適応疾患

劇症肝炎、先天性肝疾患、先天性胆道疾患、先天性代謝異常症、バッド・キアリ症候群、原発性胆汁性胆管炎、原発性硬化性胆管炎、二次性胆汁性肝硬変、ウイルス性肝硬変、非アルコール性脂肪性肝疾患、アルコール性肝硬変※、肝細胞癌※※などが適応疾患です。

※アルコール性肝硬変の場合、生体肝移植では6か月、脳死移植登録には1年6か月以上の禁酒期間が必要です。

※※肝細胞癌は最大腫瘍径5cm以下、腫瘍個数5つ以内、AFP 500ng/ml未満の5-5-500基準を満たす必要があります。

● レシピエントの条件

肝予備能・肝障害重症度

Child-Pugh分類

レシピエントのChild-Pugh分類はグレードB(7点)以上が保険適応です。

MELDスコア

脳死肝移植の適応、レシピエントの選定に用いられるスコアです。ビリルビン、PT-INR、クレアチニン値から算出されます。これらのスコアは日本肝臓学会のWEBサイトで計算可能です。

<https://www.g-station-plus.com/forpatient/hcv/score>



年 齢

生体肝移植は移植施設やレシピエントの全身状態によって異なりますが、おおむね65歳以下程度です。脳死移植登録は60歳未満です。

肝移植について

● 血液型について

生体肝移植の場合、多くの施設でレシピエントとドナーの血液型が不適合であっても移植が可能となっています。

脳死肝移植では血液型が一致する患者が優先となります。

● 脳死肝移植について

脳死肝移植実施施設で脳死肝移植についての説明や適応を満たしているかの検査などが行われます。移植実施施設及び連絡先は日本臓器移植学会のWEBから検索が可能です。

<https://www.jsh.or.jp/medical/transplant/facility/>



脳死肝移植実施施設から日本臓器移植ネットワークへの登録申請を行います。

患者がレシピエント候補者に選ばれた場合には、移植施設から患者へ連絡後、移植を受ける決断をした場合、移植施設に緊急で入院し手術になります。

脳死肝移植におけるレシピエント移植コーディネーターの役割

レシピエント移植コーディネーターは、患者や患者家族をサポートし、移植施設、紹介元の医師と連携をとって移植や移植後の医療が円滑に進むよう活動しています。

肝移植について

● 肝移植後の治療

拒絶反応といわれる、もともとのレシピエントの免疫がグラフトを異物と認識することで起こる反応で、これを防ぐためにレシピエントは免疫抑制剤の内服が必要になります。

タクロリムス、ミコフェノール酸モフェチル、ステロイドなどが使用され、日和見感染対策やグレープフルーツ、西洋オトギリソウ(セント・ジョーンズ・ワート)の摂取に注意する必要があります。

● 医療費について

肝移植では高額療養費制度、特定疾患(原因疾患による)、更生医療、福祉医療、身体障害認定など利用可能な制度があります。運用が大変複雑であるため、移植コーディネーターや移植施設及び自施設のソーシャルワーカーらと連携する必要があります。

